

昆虫標本作り教室

平成18年7月16日 10:00~14:00
総合公園・レクチャールーム



1日の予定を説明の後、講師の西原さんから、虫取りについて簡単なレクチャーを受けます。蝶は三角紙に入れ、胸の所を押さえると静かになるそうです。スタッフからは、熱中症に気をつけて、水分をこまめにする事などの注意点をお願いしました。

早速、暑い青空の公園へ出かけます。さくらの丘の芝生には普段バッタや蝶が見られるのですが、今日はあまり見かけません。暑いから出てこないのかなあと思っていたら、13日に消毒をしたようです。張り紙がしてありました。今年の参加者は色々なところに散らばり、写真を撮りに行くスタッフが大変でした。山の藪の方へいたり、池のまわりに行ったり、中には頂上まで探しに行っていたようです。途中、子どもが駆け寄ってきて、クワガタを見つけた！と言われ、覗いてみるとコクワガタ、ノコギリクワガタがいました。総合公園にも子どもたちのヒーローは生息しているようです。虫集めに苦労している参加者もいました。芝生周りにはホトンド虫の姿が見られず、藪の中に入って探す姿も見られました。1時間ほどもすると、虫かごには何かの虫が入っているようでした。



お昼を過ぎ、虫捕りの時間が終わり、昼食に戻ってきた人から順番に虫を殺さなければなりません。講師の西原さんから殺す前に注意がありました。「捕まえた虫にも、もちろん命がある生きものです。命のあるものを殺すわけですから、死骸は有効に活用してあげなければ虫たちがかわいそうです。必要な虫だけを選び、他の虫は逃がしてあげましょう。」当たり前ですが、命の大切さを理解してもらいたいと思います。



まず、「酢酸エチル」を脱脂綿に含ませたものをタッパーに入れ、虫を入れます。この薬品は劇薬なので、大人が扱うにも注意が必要です。すると15分~1時間程度でどの虫も死んでしまいます。

13:00~昼食も食べ終わり、標本作りの開始です。死骸を標本の台の上に並べます。甲虫類は中心よりややずれた位置にハリを刺します。これで虫を固定します。蝶は羽を広げて全体が乾くように展翅テープで動かないようにします。



お手本として、右の写真のような標本を持ってきてもらいました。非常に綺麗に作っており、目標は先生の見本だ！とばかりに綺麗に気合を入れたおして作りました。



お手本



お手本

次に、針を刺して動かなくした虫の足を整えるために、まち針のような針で足を広げます。できるだけ左右対称に、格好良く足を動かします。その動かした状態で乾燥するので、ここで真面目にやらないと先生のような標本にはなりません。

そうやって、いくつもの虫を標本台に貼り付けていきました。

最後に、西原先生のお願いとして、こんなことを言われました。「今日標本にしたものには、虫たちの命を奪った責任として、採集し名前、採集した日付、虫たちの生息場所（総合公園のどんな場所で捕たか）を必ず書いておきましょう。そして、綺麗に保存しておいてく「そうやって、沢山あつめておくと、もし、総合公園や採集した場所なくなっても、昔はこんな生きものがいたという貴重な資料になりまちゃんと保存すれば、100年ぐらいは保存できます。100年後に今を伝えるために綺麗に作って保存しておきましょう」



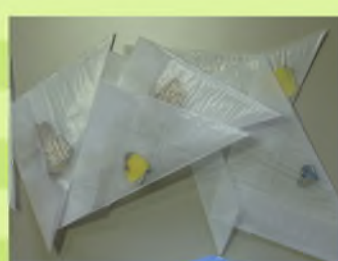
展翅テープを貼って...



お父さんもお母さんも頑張っています。



昆虫採集セット
・酢酸エチルを含ませた殺虫筒(タッパー)
・三角紙(ホルダー付)
もちろん虫網は必須



完
成

